

初めての瞬間 2年7組 松本 麗未

私は1学期初め、2年生として新たにスタートを切ることには大きな不安を抱えていました。しかし、中間テストや初めて行った学年レク、期末テストなどの行事をひとつずつ乗り越え、不安という気持ちは徐々に消えていきました。様々な行事があった1学期、その中でも私が1番印象に残ったのは7組のみんなと目標を達成した学習コンクールです。

私たち2年7組は全員で満点をとることを目標に、小島先生と相談し、三役が中心となってみんなに呼びかけ、たくさんの努力を重ねました。しかし、全員で満点をとることは、全員が同じ気持ちをもってがんばらなければならないということなので、予想外に大変で難しいことでした。

緑学年の学習コンクールでは、今まで全員満点をとることができたクラスはありませんでした。問題の特徴は「誰もが努力すれば満点をとることができるもの」だと私は聞いています。「それならば満点なんて簡単だ。」と思うかもしれませんが、実際には簡単ではなく、満点をとるために「努力をする」ということが大きな難関になりました。初めてプレテストを行った時は満点の人がほとんどおらず、全く点数がとれない人も何人かいました。しかし、放課などの時間に教え合いをしたり、自主的に勉強したりするといった、クラスに貢献しようとしてくれる仲間が一人、また一人と増えていったのです。そんな仲間のおかげもあり、よい雰囲気はどんどん広がり、プレテストを行うたびに満点をとる人が増えていきました。本番が近づくにつれて、満点ではない人は数えるほどになり、それも惜しいミスをしてしまい、あと一歩という人がほとんどでした。

そして学習コンクール当日。一人でも1点でも落としてしまえば、全員満点ではなくなってしまうという不安とプレッシャーが入り交じった雰囲気の中、7組の学習コンクールは行われました。たった5分がとても長く感じ、張り詰めた緊張感の中、問題を解いたことを今でも覚えています。終わった後のクラス内はいつのまにか自信にあふれ、まるで結果が楽しみだというような雰囲気になっていました。私も次の日に出る結果が楽しみで待ち遠しいと思いながらその日を過ごしました。

そして次の日の朝、その時は来ました。まず先生が三役を呼び、結果の紙を見せてくれました。そこには平均点10点、満点の人数100パーセント、1位7組と書いてありました。見た瞬間は思わず感動の声がもれてしまうほどうれしかったです。ついに去年、緑学年では達成することのできなかった全員満点を、7組が達成した瞬間でした。

私は、目標を達成できたのは、クラス全員の協力と、一人一人の努力があったからだ本当に強く思います。そしてがんばったことは必ず良い結果として表れるということを学ぶことができました。また、その思いと同時に学習コンクールは人間性までも試されてしまうテストなのではないかという考えも生まれました。一人一人がクラスのためにがんばろうとしなければよい結果は出ないのが学習コンクールです。だからこそ必要なのは学力ではなく、がんばろうという一人一人の気持ち、そして、みんなががんばろうと思える学級の雰囲気を作ることだという考えをもちました。

私はこのことから、クラスで団結してがんばれることの素晴らしさ、クラスみんなのがんばりに貢献できることのやりがいを感じることができました。

2年生の1学期というとても短い期間でしたが、とても充実した毎日過ごし、私は新

しく2つの目標を見つけることができました。

1つ目は、これからも、クラスや学級のためにがんばり、仲間たちと協力して、飯森祭や体育祭で7組全体が活躍できるようにし、笑顔が絶えない学級にすること。

2つ目は、今、務めている級長、企画委員としての経験を生かし、学校全体をもっと素晴らしくする活動である生徒会にも関わってがんばってみたいという目標です。

また、緑学年全体をよりよい学年にするためにもさらにがんばっていきたいです。先日、「現状、今の緑学年を1から5段階で表すとしたら2だ。」という評価を鈴木潔先生からいただきました。この緑学年の現状から、私は、このままではいけない。2年生は進化の年なのに、このままでは進化どころか退化してしまうと思いました。この現状を改善すべく緑学年では今、去年では難しかったような、新しい様々なプロジェクトを行っています。緑学年のさらなる進化に向けて、私たちの挑戦はまだ始まったばかりです。